

戦争と「自己責任社会」をのりこえるパワー

2011年3月6日 かしま九条の会にて 毛利正道（弁護士）

私の体験	戦争拒否	つながり社会の再生(25条)	加害被害少年犯罪との出会い
1959年(10才頃) 軍刀で遊ぶ 68(18) 「血塗られた軍刀」を識る 78(28) 弁護士登録 85(36) 第1回憲法記念日集会 92(43) 長男への手紙 94(45) ●加害被害少年犯罪との出会い 95(46) 米兵による沖縄少女暴行事件 97(48) 中国人強制連行事件訴訟開始 98(48) アメリカで「食卓を囲む絵」を観る 01(52) 若者とともにアフガン反戦運動 02(53) 田中康夫知事再戦再勝 下諏訪ダム差止訴訟 飯田高校刺殺事件検証委員会 04(54) ●イラク邦人3名人質事件 04(55) ●カンボジア・ベトナムツアー 05(56) 「諏訪9条の輪」発足 08(58) イラク派兵違憲高裁判決を原告として受ける 08(59) フィンランドツアー 国内外での共同・つながりを実感 10(60) 「日米同盟」は戦争抑止力か 10(61) ●ある高校での講演	反戦護憲の気持ち固まる 反戦をライフワークに 「いのちを奪う戦争」への強烈な拒絶観 ← ●非戦「地域共同体」を肌で識る＝あるのが当たり前前の不信感を克服するために必須 戦争被害がよく見えたイラク・アフガン戦争 イラク派遣英国軍1万人のうち179名死亡 帰還自衛隊員2.1万人のうち23名自殺 ⇒自衛官1万人派兵で1000名死傷する さらに立体的に地域共同体の重要性を体感 「これぞ、憲法9条を世界に広げる道！」 最も現実的＝米国の戦争で日本が報復を受けること危険 現実的対案としての「非戦繁栄の地域共同体」 ●尖閣問題解決の道 9条が削除される誘因となる危険ある ① 方向としての共同管理 ② 方法としての地域共同体による非戦確保 ③ 自国民他国民を思いやれる国民の形成 ・つながり社会の再生により築く ← ・9条の会を無数に造り活性化させることの重要な意味	つながり社会の再生(25条) 地域でのつながりの大切さを実感 ●「自己責任論」の威力を実感 ●「孤立社会」観確立 ← 現象 ①自殺・無縁死6万人 ②ブラジル人・フィリピン人との違い ③「男はつらいよ」が一層輝く現代 ④「1000年の山古志」の世界 ⑤生まれたところで死ぬの幸せ 特徴 ①社会的存在としての人間性の崩壊 ②社会的諸問題への解決力の減退 ③権力・メディアが個人をコントロール 原因 ①格差貧困無権利 ②「自己責任論」による自己肯定感剥奪 ③家庭・学校・地域・職場での孤立状況 目標 誰もが誰かを支える実感を持てる社会に ◆接近する方途◆ ① 地域(民間・行政)で、新たな繋がり築く ⇒すわこ文化村⇒諏訪にいがた県人会 ☆全国無数の「9条の会」の新たな役割 ② 政策としての パーソナル社会から分かち合い社会に ●現在の私 ① 「90になって初めて老人と呼ばれる」に感動 ② 始めたお隣との新年会 ③ 3人の子ども各々と食事を楽しむ ④ 新たな挑戦 本邦初の出前法律相談	加害被害少年犯罪との出会い 12才の長男への謝罪の手紙＝自らの暴力との決別 ●少年犯罪被害者から得たもの いのちを奪う＝喜怒哀楽ある、被害者とその人を知る すべての人の人生を破壊すること ●犯罪少年の「喜怒哀楽ノート」から得たもの 「自分も被害者も周りの人々に支えられた かけがえのない存在」との認識 ⇒いのちを奪う暴力・戦争の一層の否定 ⇒繋がっていることの重要性を実感 ●50回を超えた「子育てキーワード」講演から得たもの 親が自分のことを子どもに話すところから、 つながり・自己肯定感が再生できる ●講演後の高校生の感想から学んだこと 前提としての「荒れた学校・社会」の共通性 ① 一切の力による解決を否定 ② もめ事を話し合いで解決する ③ 身近なことから戦争まで一切を ④ それには調停役が必要 ⑤ 支えられた存在から支える存在に
◆平和的生存権の価値◆ 裁判でも戦争を止めることが可能 生存権とは不即不離 ① 戦争の有無と「犯罪による死者」増減 ② 自衛官と非自衛官との就職口の相関 ③ 軍事費と非軍事費との相関 ④ 戦争の死者は生存権を侵害された ⑤ 人が人を蹴落とす社会では、戦争への抵抗感が乏しくなる ⑥ 新たに光る 日本で世界で軍事費を削って暮らしに回せ			